
【巻頭言】

運動疫学研究の新企画

中田 由夫

筑波大学医学医療系

2015年10月1日より、新編集委員長を拝命いたしました。2010年から副編集委員長として、前編集委員長(現・理事長)の井上茂先生のお手伝いを少しだけさせていただいておりましたが、編集委員長として、これまでとは全く異なる重責を感じております。新しい役員体制が発足して以降、前編集委員長の井上茂先生と仕事の引継ぎを行い、今後の編集方針についても相談をさせていただきました。最も重要なポイントは、年2回発行される学会誌の論文数を確保することでした。これまでは、海外の研究者による総説や、日本の運動疫学コホートを紹介する連載が組まれてきました。連載は17巻2号で終了となりましたが、今後も海外の研究者に総説の執筆を依頼することはあるかと思えます。しかしながら、毎号の掲載は難しいことから、新たに2つの企画を考えることにしました。いずれも本学会誌の投稿規定にあります「運動疫学研究の知見を利用する人を含めて、運動疫学研究に携わる人々のコミュニケーションを促進することを目的」としています。

1つ目の取り組みは、二次出版論文(secondary publication)の掲載です。我々が研究を発表する場合、第一に考えることは国際的に評価の高い学術雑誌に英語で論文を投稿することです。研究者としては当然の考えですが、運動疫学研究の知見を利用する人は必ずしも研究者とは限らず、英語や最新の研究発表に精通していないこともあります。そのような方々に広く、運動疫学研究の知見を伝えるためには、英語で発表された論文を日本語訳し、二次出版論文として本学会誌に掲載することが有用であろうと考えました。ここで対象とするのは、日本人を対象とした質の高い運動疫学研究です。国際医学雑誌編集者委員会(International Committee of Medical Journal Editors; ICMJE)は acceptable secondary publication とし、以下の6項目を挙げています¹⁾。

1. The authors have received approval from the editors of both journals (the editor concerned with secondary publication must have access to the primary version).
2. The priority of the primary publication is respected by a publication interval negotiated by both editors with the authors.
3. The paper for secondary publication is intended for a different group of readers; an abbreviated version could be sufficient.
4. The secondary version faithfully reflects the data and interpretations of the primary version.
5. The secondary version informs readers, peers, and documenting agencies that the paper has been published in whole or in part elsewhere—for example, with a note that might read, “This article is based on a study first reported in the [journal title, with full reference]”—and the secondary version cites the primary reference.
6. The title of the secondary publication should indicate that it is a secondary publication (complete or abridged republication or translation) of a primary publication. Of note, the NLM does not consider translations to be “republications” and does not cite or index them when the original article was published in a journal that is indexed in MEDLINE.

本学会誌では、ICMJEの推奨する基準に則り、二次出版論文を掲載していきます。なお、二次出版論文には査読をつけず、編集委員会として、原典との整合性と日本語としての表現の確認を行います。本号では、井上茂先生に依頼し、*Journal of Epidemiology*に掲載された論文の二次出版論文を投稿いただきました。今後は、編集委員会からの依頼、あるいは会員のみなさまからの自薦、他薦を受けて、二

次出版論文の掲載を進めていきたいと考えております。

2つ目の取り組みは、介入研究のエビデンスを伝える資料論文の掲載です。17巻2号で日本運動疫学会プロジェクト研究「介入研究によるエビデンスの『つくる・伝える・使う』の促進に向けた基盤整備」の呼びかけ論文²⁾を掲載しました。このプロジェクト研究では、我が国における介入研究によるエビデンスを整理し、健康支援現場で実践するための、より具体的な情報を提供することによって、運動疫学分野におけるエビデンスの「つくる・伝える・使う」を促進することを目的としています。そこで、本プロジェクト研究の遂行に向けて、我が国でエビデンスづくりに取り組んでいる研究グループから、エビデンスとして発表されている介入方法について、その詳細を資料論文として投稿してもらいたいと考えました。なお、この企画に対する資料論文には、他の資料論文と同様に査読をつけ、エビデンスの利活用が進むような記述がなされているかの確認を行います。本号では、本プロジェクト研究の申請者である私と、共同申請者である種田行男先生(中京大学)の研究グループから、資料論文を投稿いただきました。今後は、編集委員会からの依頼、あるいは会員のみなさまからの自薦、他薦を受けて、介入研究のエビデンスを伝える資料論文の掲載を進めていきたいと考えております。

以上、新編集委員長として取り組んできた2つの企画について紹介させていただきました。もちろん、これまでどおり、原著論文、総説論文、実践報告、資料論文、その他の意見、報告などについても受け付けております。私が編集委員長となってから受け付けた7本の論文の投稿日から1st decisionまでの日数は平均11.9日と、内容にもよりますが、これまで以上に迅速に対応できております。査読をお願いしている先生方のご協力の賜物で、大変感謝しております。引き続き、査読への迅速なご対応をお願いするとともに、積極的な論文投稿をお待ちしております。

文 献

- 1) International Committee of Medical Journal Editors. Recommendations for the Conduct, Reporting, Editing, and Publication of Scholarly Work in Medical Journals. 2015.
<http://www.icmje.org/recommendations/browse/publishing-and-editorial-issues/overlapping-publications.html#three> (アクセス日: 2016年3月15日)
- 2) 中田由夫, 笹井浩行, 北島義典, 種田行男. 介入研究によるエビデンスの「つくる・伝える・使う」の促進に向けた基盤整備への呼びかけ～日本運動疫学会プロジェクト研究～. 運動疫学研究. 2015; 17: 113-7.